研究開発（2年次　※延長3年次）

令和3年度
Laboratory研究

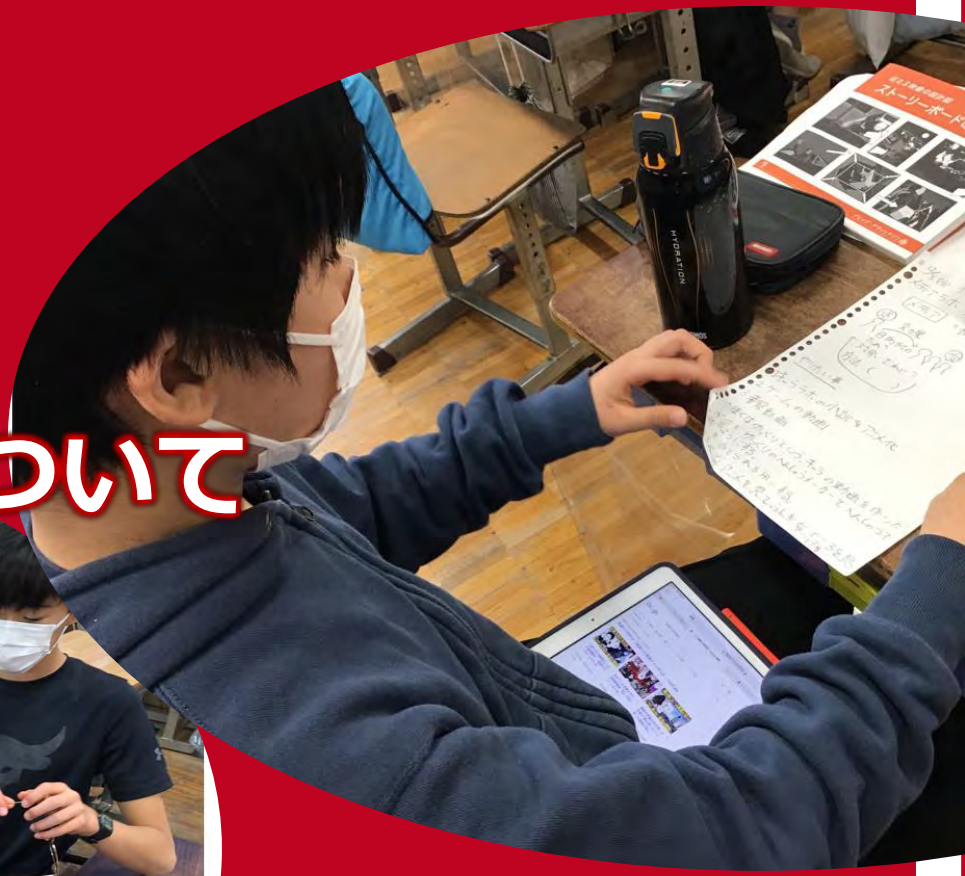
令和4年　1月22日(土)
Laboratory検討委員会

本日の発表内容

1 Laboratory構想について

2 今年度の実践（前期ラボ）から見えてきたこと

Laboratory構想について



Laboratory構想について | WG内での見解のまとめ

①研究課題の整理

・ラボを設置する目的は何か。
・「ラボ」とは何か。
・本校既存の学習活動とどのように関連するのか違いは何か。
・異学年で交流する意味・意義は何か
・何年生からどのように設置し、運営するか

②課題解決に向けた「じぶんdeラボ」の試行

・第6学年における試行　～　宮田実践　　子どもの「学び観」、目的的に活動
・第3学年における試行　～　鴻巣実践　　計画をイメージしにくい、やりたいことが変わりやすい
・第4学年における試行　～　西川実践　　個とグループを子どもが自由に、ズレ、活動プロセスの発表
・第2学年における試行　～　大島実践　　～したらどうなるの？　失敗経験、夏休みの自由研究

Laboratory構想

○年生としての「ねばならない」ことに追われ、学びに疲れ切った子
「ねばならない」ことをこなした後、好き勝手にしたいと休み時間を欲しがる子

そんな子どもたちのために

子どもたち一人一人の「学びたいこと」を
学級や学年を超えた様々な仲間（大人を含む）との
ダイナミックなかかわりの中で
自分を見つめ　調整しながら　粘り強く　たくましく
その子らしい学びを進めていくこと

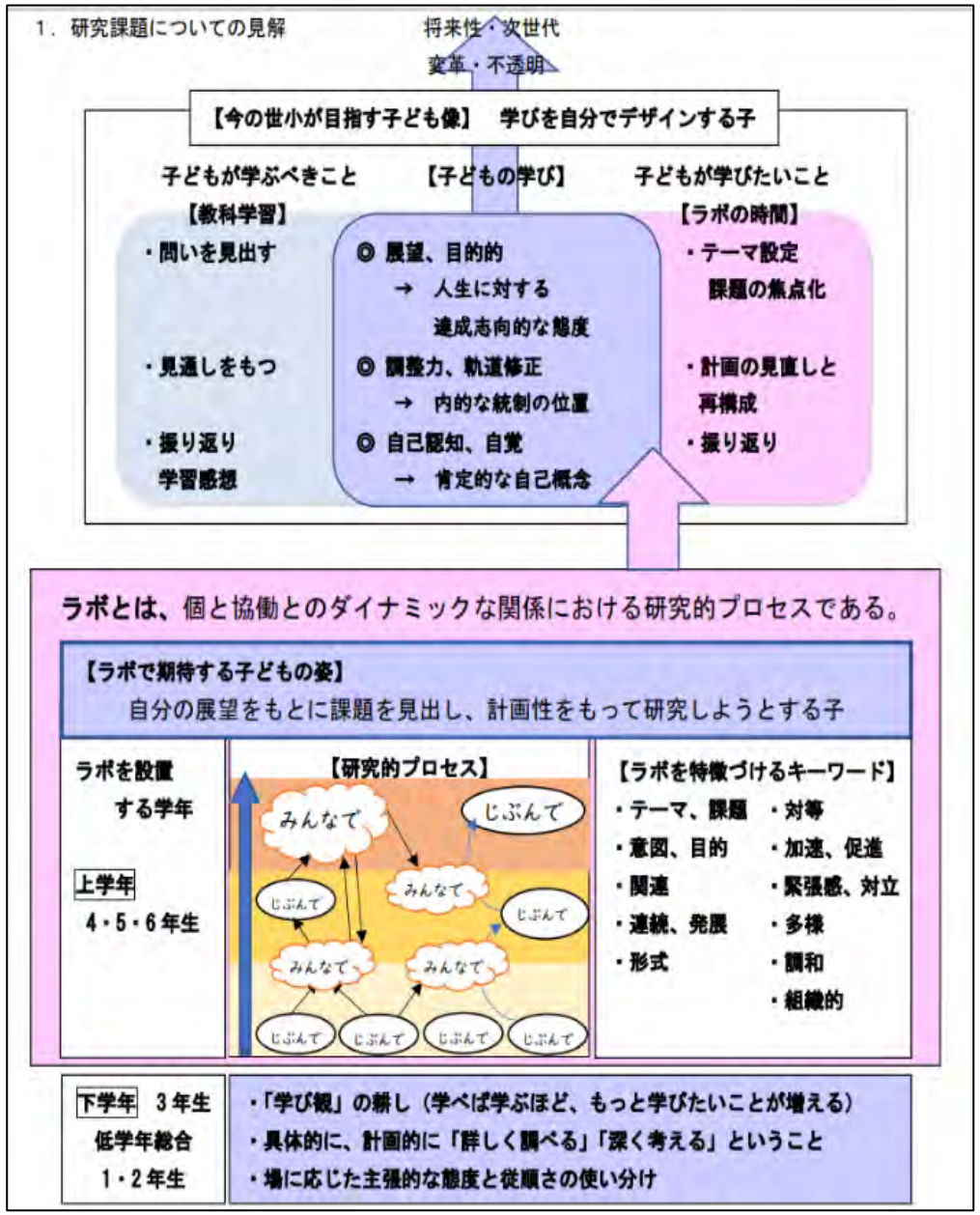
Laboratory構想について | WG内での見解のまとめ

子どもが
「～してよかったな」
「自分には　こんなことが　できるんだ」

「～になりたいな」
「～してみたいな」
「ここまでは分かった」
「次はもっと～したい」

新しい学習観を　！

ラボで期待する子どもの姿
「自分の展望をもとに課題を見出し、
　　計画性を持って研究しようとする子」



Laboratory構想について | Laboratoryにおける学びとは、どのようなものか

（1年次）

学級の仲間や担任との場だけでなく、

学級や学年を超えた様々な仲間（大人を含む）とのダイナミックなかかわりにおいて

自分の学びたいことをその子らしく展開し、

しかしながら自分を見つめ、調整しながら粘り強くたくましく、

自分の思いや願いに沿って進めていく学び

（2年次）

「みんなで」「自分で」は、学び手のVisionが決めることから、これらを統一する。

教師と子どもが、ともに学び手としてデザインプロセスを歩む。

Laboratoryは、自分の学びのデザイン

Laboratory/ラボ＝研究室での探究

-学びの「Vision」に迫る道筋を「自分」でデザイン-（3年次）

- 一人一人がテーマや研究室を選んで とことん研究します
- 自分が選んだ研究室の教室に行って研究します
- ３年生はテーマごとに学年の人たちと、

  4～6年生はテーマごとに学年をこえていっしょに研究します
- 1，2年生の「ラボ」はありません

「***学びのVision***をもち、それに迫るためにどういった目標・道筋、表現方法が必要になるか」を、思考し選択することのできる学習環境

①個に根ざした研究的・探究的な学び

②学びへの自信

③教師の立ち位置と役割

④教科学習との往還

⑤学びの連続性

①個に根ざした研究的・探究的な学び

学びの「目標設定」「道筋」「表現方法」をその子が思考・選定

集団・教科の枠を超えて、自らの学びをデザイン

学び集団としての枠

学年・学級

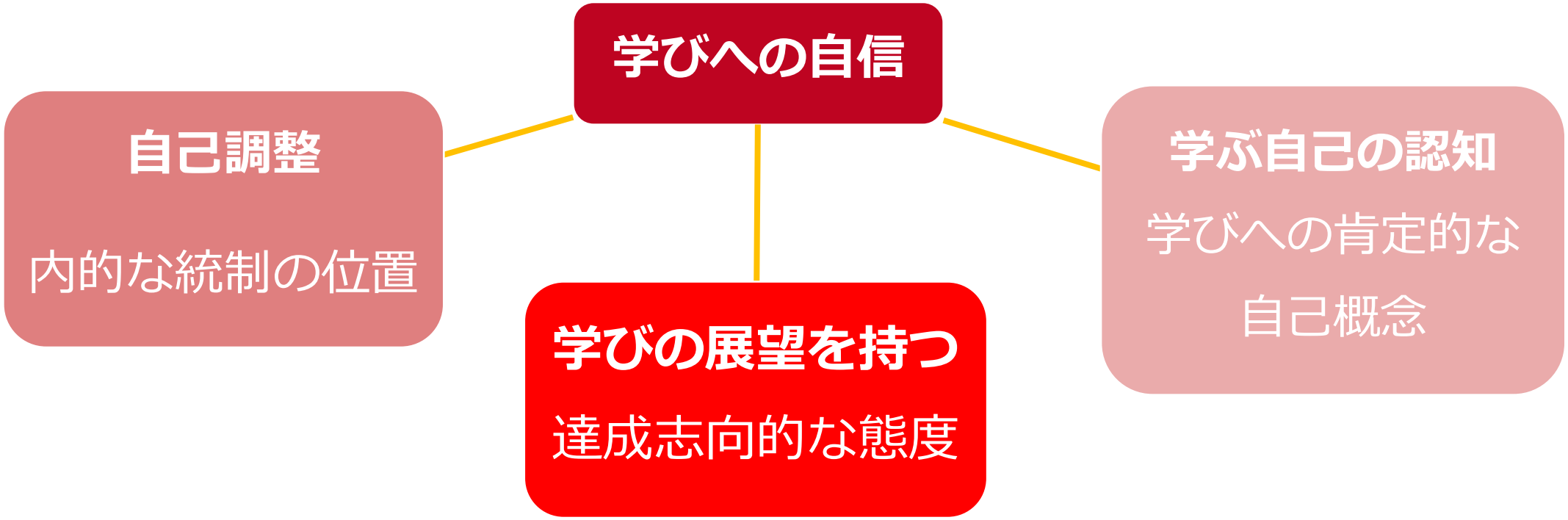
教師　仲間　上級生　下級生

学ぶこととしての枠

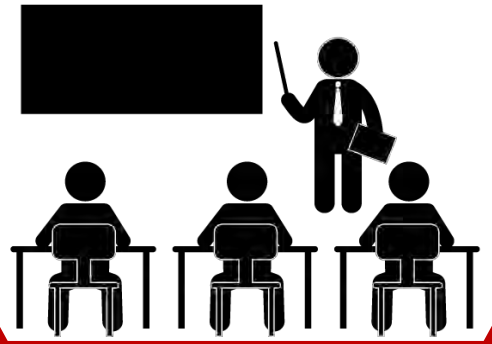
国語　算数　理科　社会

音楽　図工　体育　家庭　英語

②学びへの自信


学びへの自信
自己調整
内的な統制の位置
学びの展望を持つ
達成志向的な態度
学ぶ自己の認知
学びへの肯定的な
自己概念

③教師の立ち位置と役割



よりよい学び？

活動に没頭している姿

結果としてだけの成果物

教師のもつ価値観

よくない学び？

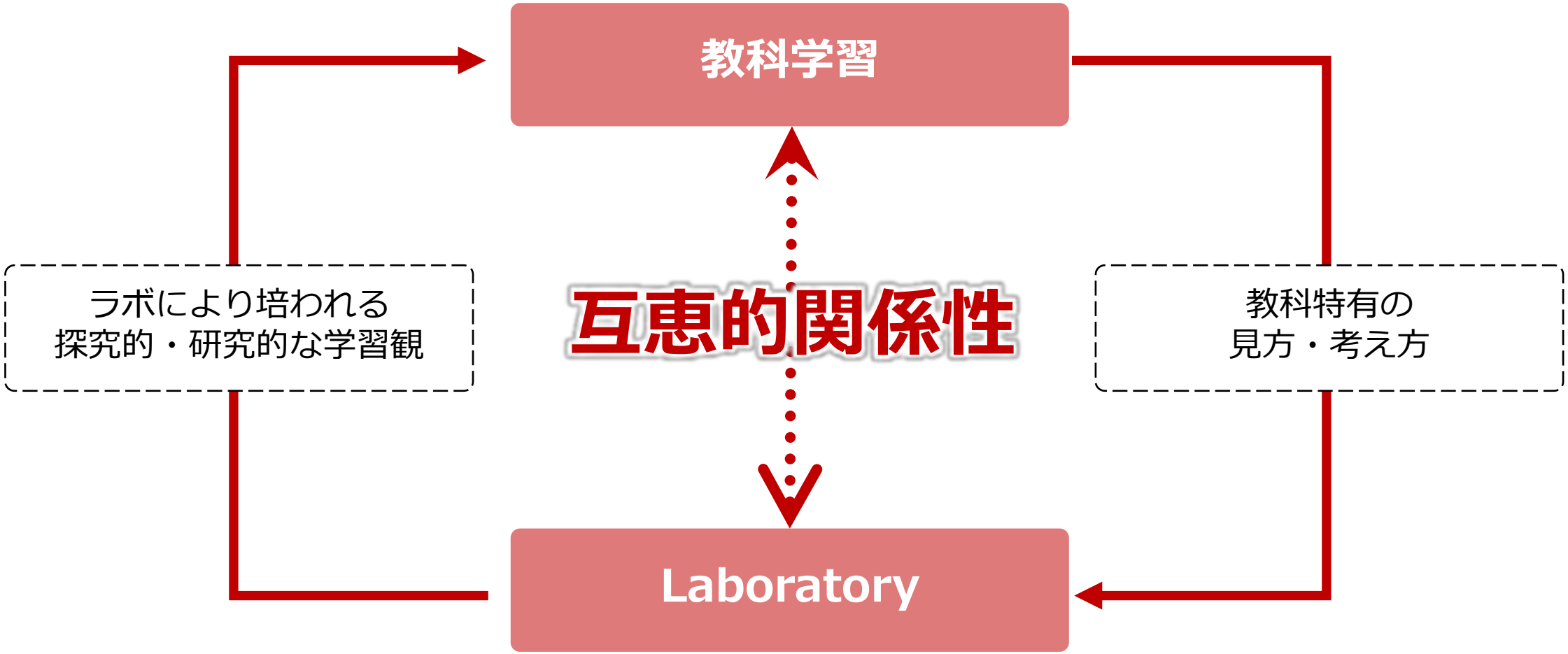
失敗したり悩んだりする姿

やりたいことが見つからない姿

そのときその場の子どもの姿や成果だけで判断せず、

その子の学びの文脈をとらえ、学びの意味をともにつくる教師

④教科学習との往還



⑤学びの連続性

低学年総合

3年生
学年・学級ラボ

4・5・6年
Laboratory

自分の願いや求めに応じた学び

自分の学びのVisionに迫る

様々な経験

興味を発展させる活動
仲間とつくる活動
経験をひろげる活動

経験を発展させる・深める

教科学習による学びの耕し

学びの目標・道筋、表現方法を思考し選択する

①「ラボラトリーの時間」の設定

②子どもの学びたいことを把握

ⅰ) 知識獲得型；知る・わかるようになりたい
ⅱ) 技能熟達型；できるようになりたい
ⅲ) 仮説検証型；～は、･･･なのだろうか
ⅳ) 模倣実行型；まねしたい、まずやってみたい
ⅴ) 制作発表型；つくりたい、みせたい
ⅵ) 挑戦経験型；初めてのことや苦手なことに挑戦したい
ⅶ) 課題模索型；迷い中（細かいテーマ、ふんわりテーマ、高難度など）

③教員の研究室設定と調整（所属人数　25名まで）

・教科＋α
・子どもがたのしい・好きなこと
・教師が子どもとともに
　学びたいこと

◇人文科学分野（哲学・社会学・文学　など）
◇自然科学分野（科学・生物学　など）
◇芸術スポーツ分野（音楽・スポーツ・ものづくり　など）
◇複合領域分野（国際・情報・社会システム・経済・環境デザイン など）

④「ラボラトリーの時間」の設定方法と各研究室での活動

・自分の学びのVisionをもち、研究的・探究的に学び続ける子どもの活動を

→通年で「ラボラトリーの時間」を設定。

低学年下校後　火、木・金　14：00～15：30　（1回　90分間）

・別の視点や分野から学びをひろげるための研究室所属変更を

→前期・後期（4ヶ月間）で「ラボラトリーの時間」を設定。

・じっくりと時間をかけて学ぶため、校外で学ぶための時間の保障を

→月1回の頻度で　1日　ラボ day　を設ける。　（7月から年5回）

⑤第３学年における学級・学年ラボの運用

■目的

・低学年総合とラボの接続

・子どもの「学び観」を豊かに拡げる。

■内容と方法

・子ども一人一人の思いや願いに基づいた探究の時間

・学級や学年を単位として、年間　54～56／70　時間

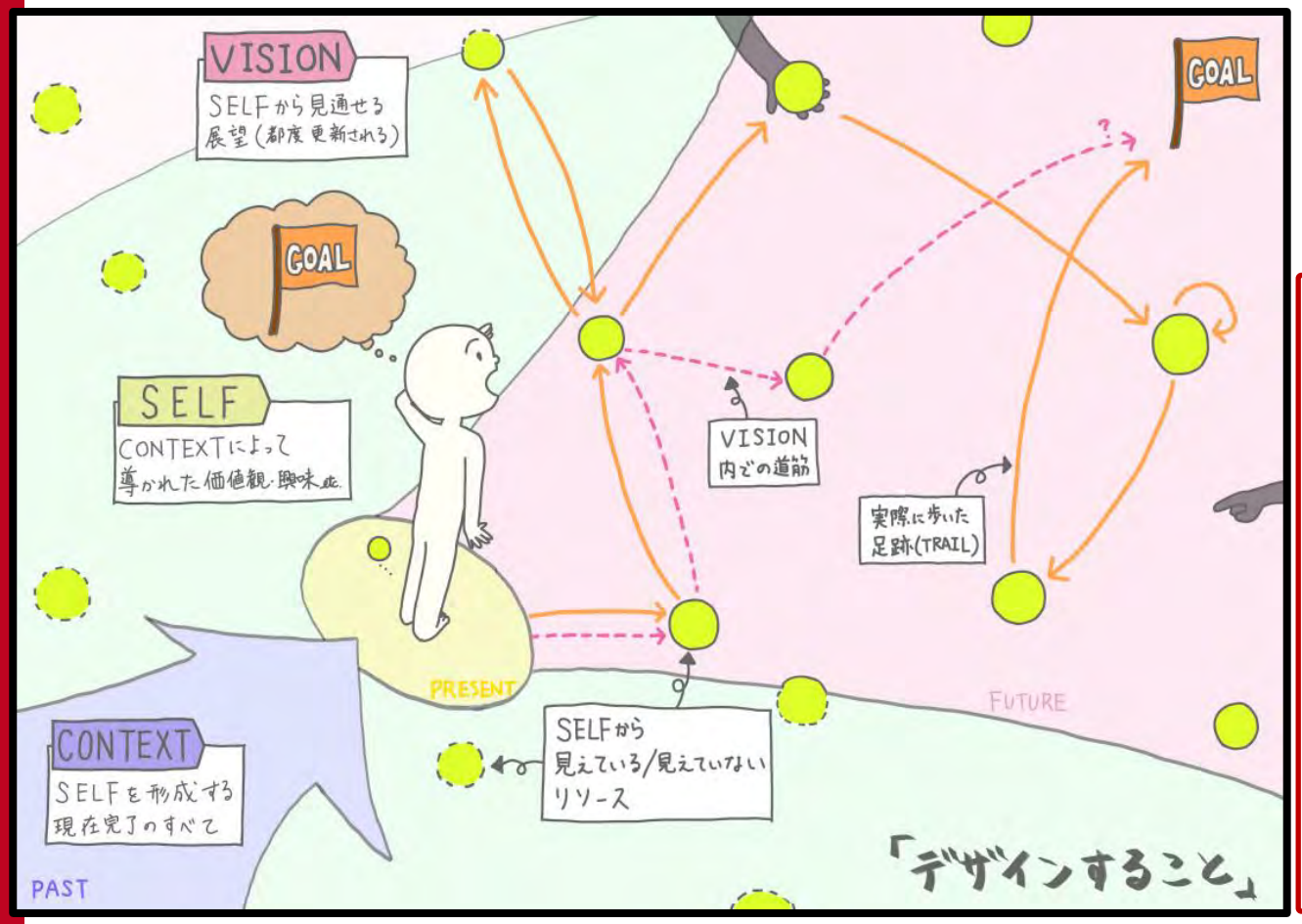
・「ラボラトリーの時間」に合わせて設定

1学期：	11～15時間	「ラボって、こんな感じ」
2学期：	30時間	「発表（2年生の参観）から」「協働的なラボ」
3学期：	11～13時間	「4年から始まるラボに向けて」

今年度の実践（前期ラボ）から見えてきたこと

Laboratory構想について | Laboratoryと教科学習との学びの違い

ラボにおける学び		教科学習での学び
子ども一人一人が 自分の学びたいことに向かって 思考し選択する	目標・道筋、表現方法	**単元目標と学習指導計画をもとに 教師が指導**
子ども一人一人が 自分の学びのVisionに迫っていく	学びの文脈	**学年毎の子ども集団の中で適時共有**
その子にとっての学ぶ意味を 自分で見出していく	学ぶ意味	**見方・考え方を働かせて 資質・能力を育成**



Vision

自分の学びたいこと

Laboratory　研究室

学びの展開

学習環境

計画 → 実行 → 振り返る → 次へ

ラボにおける学び

Vision

自分の学びたいこと

Laboratory

計画 → 実行 → 計画 → 実行 → 振り返る → 次へ

計画 → 実行 / 実行

計画 → 実行 → 振り返る → 次へ / 次へ

計画 → 計画

計画 → 実行 → ？？

教師はこの学びをどう支えていくべきであろうか？

今年度の実践（前期ラボ）から見えてきたこと（３年次） | ラボにおける学び

Vision **自分の学びたいこと**

Laboratory

学びのVisionに迫る　何かを乗り越えていく自己更新が起きる学び

今年度の実践から見えてきた内的探究プロセス

- 計画
- 探究する視点の獲得 / 動機付け
- 実行
- 新たなスキーマ / 行為への意味づけ
- 振り返る
- 見方・考え方 / 満足感・達成感
- 次へ
- 絞り込み / 焦点化

学びが自分のものであるという自覚

- 情意面での自覚：意欲、動機、成功、満足感、試行、達成感、協働性
- 行動での自覚：失敗、不安、足掻き、問い、語り、目の前を豊かに、工夫、連続性
- 概念化

子どもが目標・道筋、表現方法を、思考し選択することができるように
一人一人の子どもとともにその子にとっての学ぶ意味を見出す

教師の役割

時間・場所・作法・人材・基礎知識・学習資源・量

学習環境